

2023年度（令和5年度）山のトイレを考える会 活動報告

1. フォーラム案内、ニュースレターを送付（2023年1月27日）

第24回山のトイレフォーラム案内とNO.24ニュースレターを会員及び関連団体へ約300通送付しました。

2. 令和5年度定期総会の開催（2023年3月12日）

第24回フォーラム開催日に定期総会を開催しました。令和4年度事業報告、会計報告、令和5年度事業計画案、予算案、運営委員案について承認されました。

3. 第24回山のトイレフォーラムを開催（2023年3月12日）

第24回山のトイレフォーラムを札幌エルプラザ・環境研修室1・2で42名の参加者を迎えて開催しました。テーマは「山のトイレに取り組む人たち」です。

(1) 講演 NPO法人かむい 代表 濱田耕二氏

テーマ「登山者が安心して登山できるトイレを維持する為にかむい出来る事」

(2) 総合討論 コーディネーター 山のトイレを考える会 代表 小枝正人

フォーラムの内容は当会ホームページに講演内容（YouTube）、プレゼン資料、フォーラム資料集、フォーラムの記録など全て掲載しています。



講演者の濱田耕二氏

4. 小樽赤岩峠のトイレ建て替えを求める署名に協力（2023年3月31日）

道央地区勤労者山岳連盟から協力を依頼された「小樽赤岩峠のトイレ建て替えを求める署名」について3月31日に69筆の署名を後志総合振興局保健環境部環境生活課宛てに送付しました。同連盟全体では1,771筆でした。

5. 美瑛富士トイレ管理連絡会による点検パトロールの実施（2023年6月25日～10月1日）

「美瑛富士トイレ管理連絡会」による携帯トイレブースの点検パトロールをスタートしてから9年目。今年は8回実施することができました。お陰様でブース設置前と比べ、汚物とティッシュの散乱は格段に少なくなり、避難小屋周辺は大変綺麗になりました。また嬉しいことに、トイレ道は判別できないほど薄くなり、植生も回復してきました。

〔点検パトロール実施状況〕

・6月25日：環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会：13名（冬囲い外し含む）

- ・ 7月 9日：大雪山国立公園パークボランティア連絡会：7名
- ・ 7月16日：札幌山岳連盟：4名
- ・ 7月23日：日本山岳会北海道支部：3名
- ・ 7月30日：北海道山岳連盟：12名
- ・ 8月20日：道央地区勤労者山岳連盟（豪雨で途中断念）：11名
- ・ 9月10日：道北地区勤労者山岳連盟：6名
- ・ 9月26日：北海道山岳ガイド協会：2名
- ・ 10月1日：環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会：11名（冬囲い含む）
（延べ参加者数：69名）



点検パトロールと冬囲い作業終了



冬囲い中の携帯トイレブース

6. 日高エリア3町と幌尻岳携帯トイレ普及に向けた意見交換（2023年5月16日～17日）

日高山脈襟裳国定公園は2024年に国立公園となる予定です。日本百名山・幌尻岳には3つの登山コースがあります。北戸蔦別岳経由のチロロ林道（二岐沢）コースは日高町、額平川コースは平取町、新冠コースは新冠町の管内となります。国立公園化により登山者も増加すると思われる、登山者による尿汚染が危惧されます。

一つの対策として自らし尿を持ち帰る「携帯トイレ」がありますが、その普及方法等について3町の担当者と意見交換をしました。当会から小枝代表、仲俣事務局長、そして携帯トイレのメーカーである（株）総合サービスの高橋眞一氏が参加しました。

当会の今後の活動に参考となる有意義な意見交換ができました。

7. アポイ岳安全登山・盗掘防止研修会で講話（2023年6月3日～4日）

様似山岳会とアポイ岳ファンクラブ主催の第13回アポイ岳安全登山・盗掘防止研修会で、『山を守る～山のトイレの必要性』と題して事務局長の仲俣善雄が講話を約1時間しました。

この研修会はアポイ岳ファンクラブとユウパニコザクラの会の交流登山会も兼ねています。講話での参加者は約30名。次の日はピンネシリ～アポイ岳の縦走登山。雨の中での登山でしたが約20名が参加、交流を深めることができました。

8. 山のトイレマップ約10,000部配布（2023年6月～10月）

「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」に少しでも寄与できるよう、啓発ツールの山のトイレマップを作成しています。常設トイレ・携帯トイレブース・携帯トイレ回収ボックスの各位置、登山口近くの販売店が載っています。関係各所に配備と登山者への配布をお願いします

した。今回で5年目です。

配備先の宿泊施設、ビジターセンター、森林管理署、ロープウェイ会社等の協力を得て、大雪山国立公園の15カ所で約7,000部、知床・利尻山・羊蹄山の6カ所で約800部、その他45宛先に約1,000部、北海道インターハイ登山大会に600部(マナーガイドも600部)など全部で約10,000部を配布しました。

9. 日高山脈の国立公園化に向けた山小屋とトイレの実態調査 (2023年6月・9月)

日高山脈の国立公園化が2024年に予定されています。当会では日高山脈ファンクラブの協力も得て、山小屋とトイレの調査を2022年度は10カ所、今年度(2023年度)は4カ所について実施しました。

〔2023年度調査実施箇所〕※

① 新冠ポロシリ山荘 ② イドンナップ山荘 ③ 幌尻山荘 ④ 芽室岳登山口仮設トイレ

※チロロ岳登山口トイレは林道崩壊により通行止めが継続、調査はできませんでした。

①②は新冠ポロシリ山岳会が③は平取町山岳会が町役場と連携して維持管理をしていることが分かりました。④は登山口の「山小屋芽室岳」が2016年の台風で崩壊したのですが、清水町役場が仮設トイレを設置しました。大変ありがたいことです。



新冠ポロシリ山荘とトイレ



新冠ポロシリ山荘トイレの汲み取り作業



イドンナップ山荘



イドンナップ山荘のトイレ



幌尻山荘バイオトイレ（別棟）



幌尻山荘内トイレは携帯トイレブースに変更

10. 裏旭野営指定地の携帯トイレブース調査（2023年9月10日）

8月29日、環境省が裏旭野営指定地に携帯トイレブースを設置しました。

9月10日に視察に行ってきました。昨年、旭岳9合目に設置したものと仕様は同じです。強風に耐えられるよう円筒形とし、冬期は解体しその場で保管、夏期シーズン始めに組み立てる方式です。旭岳周辺登山道における山岳トイレ問題の解決に向けた方向性を検討することを目的に、2022年度から3ヵ年かけて旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置の効果検証を行う一環です。

関連した事項では、2021年に当会や当会の趣旨に賛同した山岳7団体が、現地でアンケート調査等を実施、報告書を公表しました。1日でも早くブースが常設設置されることを願っています。



裏旭に試行設置されたブース



ブースの中。清掃用品も配備してあった

11. 各種会議と山岳団体交流会に参加

2月8日の第2回大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会（東川町で開催）及び6月26日の第3回同会議（上川町で開催）に小枝代表と仲俣事務局長が参加しました。

また、6月20日（第5回）と12月25日（第6回）の大雪山国立公園登山道維持管理部会の会議にはオンラインで参加しました。さらに11月30日に札幌で開催された第14回北海道山岳団体交流会に小枝代表と仲俣事務局長が参加しました。

（以 上）